

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 3 月 31 日 回収 7

ADDSkids1st 鎌倉

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	法令に遵守している配置を行っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	入り口がバリアフリーになっているが、色だけで靴を履き替える場所を区別しているが、少しわかりにくい気がする。	同フロアのミライエさんと検討していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	冬は床暖房が聞いていて過ごしやすい。朝の掃除の際、各部屋に換気スプレーをしている。	部屋の環境には気を付けていく。今年度はコロナ感染予防もあり、換気を徹底して行った。

業務 改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	*事業所評価はHP上で公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%		法人の監事役の方をお願いしている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%		*ABAの勉強会などを行っております。今年度はオンラインの支援、新人研修、発達検査、衛生に関する研修を行った。全員が参加できる様にしていきたい。

	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	*定期的に発達検査をとっている	今後もお子様のニーズに合わせた個別支援計画を作成していきたい。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	*新版k式発達検査などを用いています	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	71%	29%	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	*子どもの様子、保護者の方の意向を踏まえ、担当とスーパーバイザーとチームを組んでプログラムを立案しています。 今後もチームでお子様の支援をしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	*月2回程度SVが出席し、課題の更新等を行っています。 ケースミーティングなどで課題の見直し、svからのアドバイスを受けていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	*ニーズがあれば個別指導と集団活動を組み合わせて支援を行っています。 ニーズの確認、保護者様の希望を伺っていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%	*集団活動前にその日の活動内容などについて、事前に打ち合わせを行っています。 その日の予定はスタッフで共有していく。 *個別指導については1対1で担当が決まっているため、役割分担などはありません。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	63%	38%	*毎日行っていない。 振り返りができるよう、時間配分に努める。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	*定期的にモニタリングを行い、必要があれば見直しを行っています。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	*医療ケアが必要なお子様への支援は行っていません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	*医療ケアが必要なお子様への支援は行っていません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保護者から依頼があり、保育園や幼稚園に訪問し連携を取っている。(無回答あり) 引き続き依頼があれば幼稚園・保育園に訪問していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	鎌倉市授業所連絡会主催の研修や、会議に参加。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	階下の保育園の行事等に参加していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	50%	50%	(わからない3名)
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	*支援の最初と最後に保護者と情報共有する時間を設けています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	*個別指導や集団指導に通われる前に必ずペアレントトレーニングを受けていただいております。 保護者様のニーズにこたえられる様、引き続き支援をしていく。

	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	*契約時に必ず行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	*契約時に必ず行っています。

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	*ケースのフィードバック時や待ち時間に相談を受けることがあります。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%	(わからない3名)
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	*相談があった場合は、迅速に対応するよう心がけております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	年に5回ほど会報を掲示している。 引き続き訓練報告など伝えていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	*十分に気を付けています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	*十分に気を付けています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%	わからない(4名) 今年は花火大会の実施がないので、他を検討したい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	*感染症の訓練は実施していない すべての職員が訓練に参加できるように、日程調整をする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	*定期的に避難訓練を行っています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	*契約時に確認をしています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	%	%	アレルギーの申告はしていただいている。 こちらから、食べ物を提供しないので、医師の指示書までは頂いていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	*ヒヤリハット報告書を作成しております。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	88%	13%	*計画に記載なし*身体拘束はしない前提で療育を行っている。 療育の中で、身体拘束を行わない方法で研修を積んでいる。